

## カムイワッカ地区の利用のあり方、将来ビジョンについて

(カムイワッカ部会(第17回)資料4 再掲)

## 1. 経緯 1999(H11)～2021(R3)

年度	道道知床公園線の通行	マイカー規制期間	硫黄山登山道の利用期間	湯の沢利用区間				
H11 1999 H12 2000 H13 2001 H14 2002 H15 2003 H16 2004	供用区間: 知床五湖～知床大橋 (マイカー規制期間はシャトルバスのみ通行可)	お盆を除く16日間	可	規制なし (五の滝まで)				
H17 2005 H18 2006 H19 2007 H20 2008 H21 2009 H22 2010		お盆を含む 23日間			不可	五の滝利用自粛		
H23 2011 第1期 H24 2012 H25 2013		8月1日～8月25日、 9月15日～9月24日 までの計35日間				特例申請により利用可 (6月25日～8月25日)	一の滝上部まで	
H26 2014 第2期 H27 2015 H28 2016						8月1日～8月25日、 9月13日～9月22日 までの計35日間		特例申請により利用可 (6月23日～9月23日)
H29 2017 第3期 H30 2018 R1 2019						8月1日～8月25日、 9月19日～9月23日 までの計30日間		特例申請により利用可 (7月2日～9月23日)
R2 2020		8月1日～8月25日、 9月13日～9月22日 までの計35日間				特例申請により利用可 (6月21日～9月23日)		一の滝上部まで
R3 2021	8月1日～8月25日、 9月18日～9月22日 までの計30日間	特例申請により利用可 (6月20日～9月23日)						
	8月1日～8月25日、 9月15日～9月24日 までの計25日間	特例申請により利用可 (6月16日～9月24日)						
	8月1日～8月25日、 9月15日～9月30日 までの計30日間	特例申請により利用可 (6月15日～9月30日)						
	8月1日～8月25日、 9月21日～9月29日 までの計30日間	特例申請により利用可 (6月21日～9月29日)						
	8月9日～8月15日、10 月2日～4日 <sup>1)</sup> までの 計10日間	特例申請により利用可 6月第3金曜日 ～9月最終日曜日 (6月19日～9月27日)						
	供用区間: 知床五湖～カムイワッカゲート (マイカー規制期間はシャトルバスのみ通行可)  開通期間: 6月1日～10月3日	8月7日～8月16日、 10月1日～3日 <sup>1)</sup> まで の計13日間	特例申請により利用可 6月1日～10月3日 <sup>2)</sup>	一の滝上部まで <sup>3)</sup>				

- 1) 10月のマイカー規制区間は、従来の知床五湖～カムイワッカ地区に加え、幌別地区(国道334交点ゲート～知床五湖)も追加して実施した。
- 2) 硫黄山登山道の利用期間は、道道知床公園線の開通期間と合わせるよう変更となった。
- 3) 7月1日～7月20日、10月1日～10月3日は、カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用試行事業実施のため四の滝手前まで利用可能とした。

## 2. 利用者数

- 湯の滝の入渓数は3.5万人～4万人前後(図1)。硫黄山の登山者は1,000人未満(図2)。
- 地区全体の入り込みは、5か月間でおおよそ5万人以下と推定される。

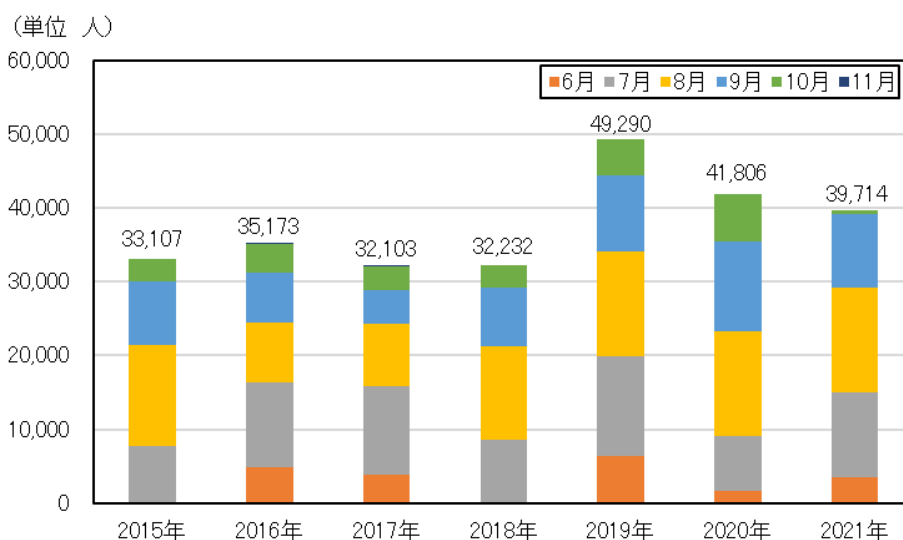


図1. 2015～2021年 カムイワッカ湯の滝利用者数の推移(利用者カウンター)

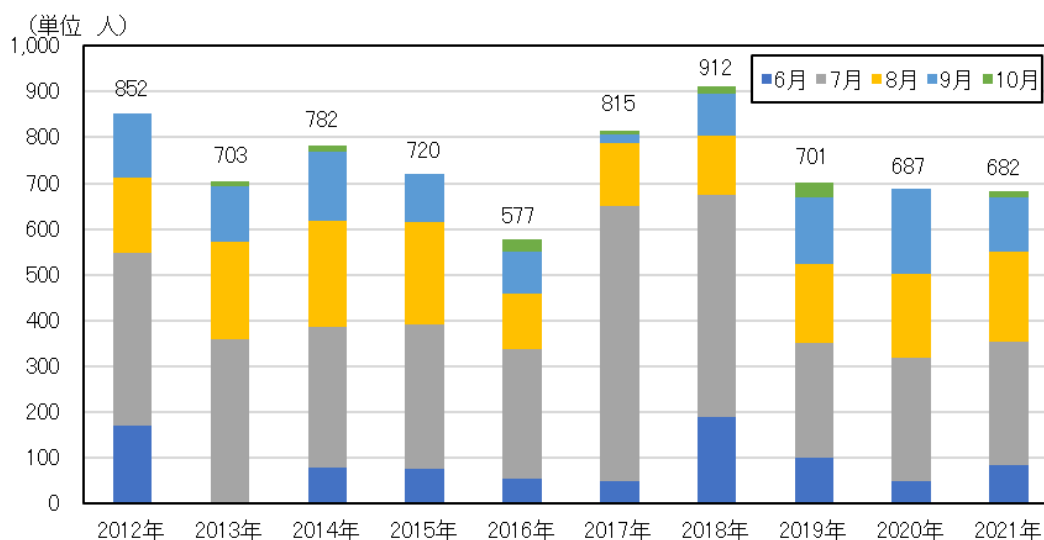


図2. 2012～2021年 硫黄山登山口利用者数の推移(利用者カウンター)

### 3. 利用形態と滞在時間

- 主要な利用形態は、カムイワッカ湯の滝（一の滝上部まで）の沢登りと登山利用。
- ガイドツアーとしてマウンテンバイクや新噴火口のトレッキングなどのプログラムが催行されている。
- 滞在時間は20分～30分程度（図3）。60分未満の滞在が9割を占める。

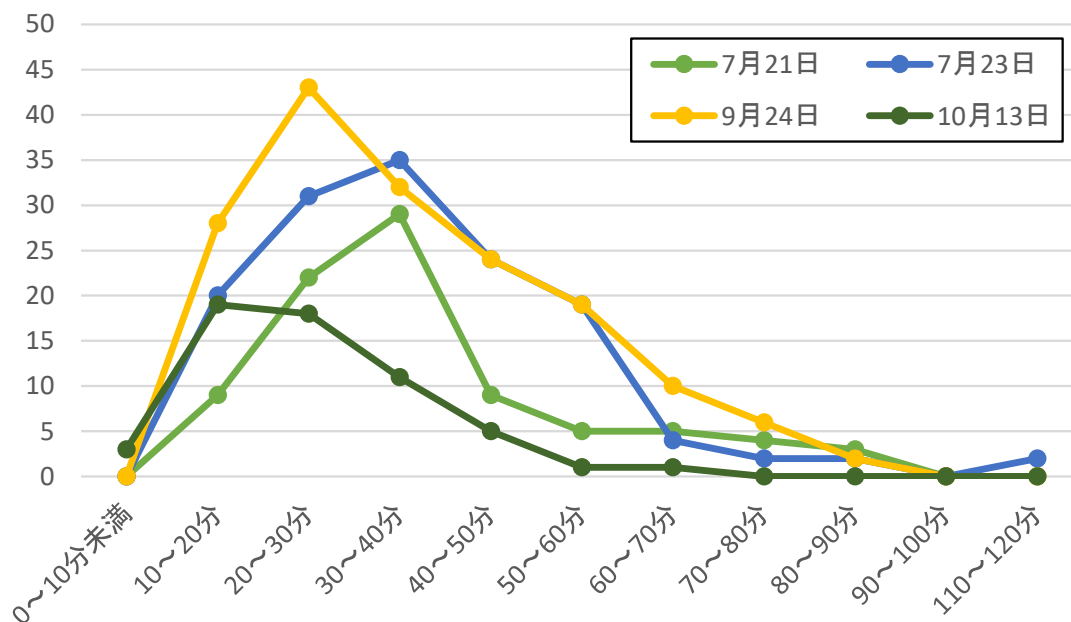


図3. カムイワッカ地区の駐車時間と滞在時間の関係 (2016年度調査)

### 4. 施設および管理体制

- 例年、7月連休から9月連休までの期間において、湯の滝利用の監視員が1～2名配置される。主な業務は、安全指導のほか、車両誘導、トラブル対応等。
- 主な施設は、簡易トイレと駐車帯（25台程度）。

施設	場所	規模	管理
湯の滝駐車帯(仮設)	カムイワッカ橋両岸	約20台	協議会、斜里町
登山者用駐車帯	ミラーNo.5付近	約5台	協議会、斜里町、北海道
シャトルバス停留所			
トイレ(仮設, 汲み取り)	カムイワッカ橋右岸	3基	協議会、斜里町、公園財団

- 水道、電気などのインフラはなし。携帯電波も圏外。無線機による通信を確保しているが、電波状況は非常に悪い。

5. 土地と保護規制の状況(世界遺産と国立公園)



## 6. 既存の計画

計画		摘要
知床国立公園 公園計画 (環境省)	道路	ウトロ・羅臼線より知床五湖及び知床大橋へ至る路線で、本公園の主要利用動線として、風致維持に配慮した整備を行う。
	園地	カムイワッカ湯の滝周辺及び硫黄山登山線起点付近の探勝利用者のための施設を整備する。 ① カムイワッカ湯の滝へと続く通路手すりを整備する。整備にあたっては、新たな地形の改変等を行わない。 ② 下水道が整備されていないため、くみ取り式のトイレを整備することで、周囲の河川や湖沼の水質に影響を与えないようにする。 ③ カムイワッカ川河口に硫黄採掘の産業遺構が残っており、将来的には歴史的経過や火山の影響を受けた自然環境を教育できる場としての活用も検討する。
知床国立公園 公園管理計画 (環境省)		<ul style="list-style-type: none"> <li>● カムイワッカ地区は知床国立公園の陸域の最深部にあたり、知床の秘境感が得られる自然体験を提供する場所である。適正利用に関する情報を提供するシステムの確保と管理体制の充実を図る。</li> <li>● 自然環境の保全と快適な利用環境の確保、交通事故の防止のため、道道知床公園線の知床五湖からカムイワッカ間については、混雑が想定される期間についてマイカー規制を行い、構成機関・団体で連携し対策を実施する。</li> </ul>
斜里町観光振興計画 (斜里町)		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立公園内の重要な景観道路でもあることから、景観ポイントなどで安全に停車できるように停車帯整備を関係機関に要請する。</li> <li>● 安全啓蒙や自己責任の下、かつてのように4～5の滝まで行けることが可能となる仕組みを関係機関と協議し、検討する。</li> <li>● トイレなど簡易的な設備整備を関係機関に要請する。</li> </ul>

## 7. 強み・弱み

強み(魅力)	弱み(課題)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原始性のあるビューポイント</li> <li>● 湯の滝の強力な魅力、ブランド</li> <li>● ハイキングや登山の拠点</li> <li>● 地質や歴史など潜在的な資源</li> <li>● MTB やボルダリング、沢登りなど AT のフィールドとしての可能性</li> <li>● 滞在しなければ楽しめない立地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用の制限(立ち入り制限)</li> <li>● 短い滞在時間</li> <li>● 平場がほとんどなく造成も困難</li> <li>● 駐車スペースやアクセスの確保</li> <li>● 脆弱なインフラや施設</li> <li>● リスクや安全対策</li> <li>● 現地管理体制の確立</li> </ul>

制約要因も多いが、魅力や可能性も高いことから、地域合意に基づく将来ビジョンの共有と戦略的な取組みが必要

## 8. 目標と検討ポイント(実施主体や予算は確定していない)

### 目標(案)

- ・五湖、ホロベツとは異なる利用者層、体験の質、責任の程度を前提とし、原始性の高い景観や本格的なアウトドア活動、AT ツアーの場とする。
- ・滞在型、体験型観光の実現の場として宿泊数、滞在時間増加を狙う。
- ・これらを実現するため、アクセスの工夫と必要な施設整備、環境整備を行う。

### 検討のポイント

- ① **利用者数や利用者層**—利用者数の規模感や利用者層のイメージ
- ② **アクセス手段**—自家用車と公共交通(バス等)が両立せず、駐車スペースとなる平場も限られていることから、アクセス戦略が利用のあり方を決定する。自家用車でのアクセスを前提とするかにより、整備のあり方なども大きく変化する。
- ③ **利用のルール、安全対策、情報提供**—事前に情報や説明、準備の必要な場であり、全てを現地で実施することは難しいため、これらを実施する方法や場所、担い手の検討
- ④ **施設整備とインフラ整備**—遊歩道(園路)や手すり、案内標識、展望施設、トイレ、避難・休憩場所、バス停や駐車場、管理施設等の施設整備と整備水準のイメージ